



Rotary International

LEAD THE WAY

率先しよう

2006～2007年度

国際ロータリーテーマ：ウィリアム・ボイド会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

東京赤坂ロータリークラブ

No.927 / 2006.10.13

例会 / 毎週金曜日12:30

例会場 / 東京全日空ホテル Tel 03-3505-1111

事務局 / 〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

http://www.k5.dion.ne.jp/~akasaka

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「これまでも、これからも 皆で築こう赤坂ロータリー」

2006～2007年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ／荒木昭文会長

●本日の例会／2006年10月13日第949回例会

◎卓話 『当クラブ創立時の思い出』

当クラブ チャーターメンバー

馬場・澤田法律事務所 所長 馬場一廣 君

— ●先週報告／2006年10月5日第948回例会 —

第2750地区谷島昶ガバナー公式訪問

東京南 RC・東京赤坂 RC 合同例会

ご来賓

地区ガバナー

谷島 昶 氏(東京羽田RC)

千代田グループガバナー補佐

秋山庸一 氏(東京芝RC)

千代田グループガバナー幹事

大徳宏教 氏(東京芝RC)

◎卓話 『ガバナー公式訪問にちなんで』

第2750地区ガバナー 谷島 昶 氏
(東京羽田RC)

今年はビル・ボイド会長から「率先しよう」という、私にとってやりやすいテーマをいただきました。先ほどご紹介いただきましたように、私は理工系出身の人間なので、あまり回りくどいことをしたくありません。その一例を真っ先にご報告しましょう。先日第2ゾーン（地区の上にあるエリアで関東や長野、富山が入る）のガバナーが集まって、今年は、RIや地区では皆で広報を盛り上げようということになりました。そこでいい案が多く出たので、早速宣伝させていただき、「率先する」年の象徴にしたいと思います。なお、第2ゾーンの広報リーダーは恵比寿RCの司葉子さんです。

今、飲酒運転で非常に悲惨な事故がおきています。痛ましい事故、特に子供の事故が報道されておりまして、皆さんはどうすれば事故をなくすことができるか思案されておられると思います。この問題に対して、ロータリーも少しでもお役に立ちたいと考え、集まったガバナーが知恵を出し合って、ロータリーのマークと「私は絶対飲酒運転をしません」というキャンペーン標語を入れたりボンを作って、これを自分の車に貼ろうじゃないかということが集まったガバナーのコンセンサスとなりました。これから真っ先にやりましょうということで、紹介したいのはここにありますリボンマグネット、車にベタッと貼り付けることができます。これは見本ですので、これをいいデザインにし直して、全ロータリアンが自分の車に貼っていただく。デザインがいいと、駐車中に盗まれるでしょう。でも盗まれることがいいことで、それによって広まってゆきます。いいデザインのものを作って、街中で大いに盗まれましょう。実施についてゾーンとしてほぼ合意しております。これからお酒のシーズンが始まりますので、忘年会の前にこれをスタートすることで、広報の効果を上げてゆきたい。こういうことにロータリーが率先して取り組んでゆくことから、まずロータリーの広報を始めて行くということです。完成したものをグループ協議会で皆様のところに持って参りますので、是非ご採用いただきたい。また、各クラブがばらばらのものを使ったのでは広報になりませんので、一つのデザインでコンセンサスをいただきたい。できればゾーン、あるいは全国で同一のデザインで行くことになると、ロータリーマークも広報的な役割を果たすし、またメディアも取り上げてくれます。また、警視庁へも申し上げるので、そういう意味でロータリーが少しでも広報効果を上げてい



ただけると思います。

この話に象徴されますように、今年はなんでもすぐやろうと思っています。私のできるのはそれしかございません。今日は、両クラブの会長とお話しましたが、青少年交換でクラブが非常に苦労している、特に都市型のクラブは表に出ない難しい問題を抱えています。これをシリアスな問題として取り上げることに決めました。それで秋山バスターガバナーが8名のガバナー補佐のリーダーとなって改善案を作成し、11月の地区役員会に出して決定し、来年1月には会長幹事会で決め、次年度予算に反映してゆくという、非常にスピーディな動きでこの問題を解決してゆきます。青少年を引き受ける家庭の問題は、長年あちこちで言われており、問題はずっとフローティングしていたのですが、一向に解決しないまま、毎年青少年を受け入れてきました。率先しましょう。今年こそ、この問題は放って置けない年なので、いい方向に解決して、皆さんロータリアンがハッピーになり、このプロジェクトが受け入れられるようにしてゆきたいと思っています。

私は理工系なので、やることしかできませんので、今ふら下がっている問題を少しでも前進させようと思っています。そういう点から見ると、当地区でも長年困っている問題がいろいろあります。ひとつは、「ロータリー財団が分からない」、また「職業奉仕も何度聞いても分からない」という、ロータリアンの合言葉になっているような困った問題があります。会員が分からないのでなく、情報提供のやり方が悪いということも停滞している問題であり、一歩でも二歩でも解決の方法に向こうじゃないというのが地区の雰囲気です。今年は本当に「率先しよう」ということをしたいので、皆様のご理解をいただきたいと思います。率先しようということはロータリーだけでなく、行動を果敢に起す、チャレンジする、実践する、すべて同じであり、スポーツの世界ではJリーグを立ち上げた川淵三郎さんは選手に対してこういっています。「とにかくチャレンジしなさい。三日坊主でいいからやりなさい。一番いけないのはチャレンジしないこと。動かないのが一番いけない。やってみると必ず先が見えてくる」、こういう言い方で激励しています。堀江青年がヨットで世界をまわったときのインタビューを見ていたのですが、ジャーナリストの「なぜ、懲りもせずに東へ行ったり、西へ行ったりして世界を廻っているのですか」という質問に対して、同じように「チャレンジすると先が見えてくる」と答えていました。聞いてみれば当たり前だが、言われてみれば「なるほど」という言葉をいただきまして、停滞している問題を先に進めたいと思っています。

「率先しよう」という言葉に、今年は若干、ビル・ボイドさんが付け加えていることがあります。ボイドさんは私どもが国際協議会で教育を受けたとき、こういうことを付け加えておられます。「ロータリアンは超我の奉仕を掲げるだけでなく、常に誇りを持ってロータリー像を率先して歩もう」と。そして、「より良い未来に率先しよう」。超我の奉仕を身につけただけでなく、それを実践の段階に持ってゆこうと、付け加えて説明しています。率先しようと言っている訳ではありません。ロータリーの第2世紀の1年目は「超我の奉仕」というテーマをいただきました。「超我の奉仕」は、「1世紀にわたるロータリーの基本思想、基本哲学であったわけですが、この基本的なものをわざわざ年度のテーマに持って来たのが第2世紀の第1年目で、なぜだろうと思っていましたら、第2年目が「率先しよう」でした。なぜでしょう。実はこの2つのテーマは重要なコンビネーションを持っていて、2つが合一したものです。そういう思い出すが、「知行合一」という儒教思想です。「知」と「行」は一体になっていなければいけないという陽明学の思想です。この2つが符合しているわけです。ステンハマーさんとボイドさんは、こうしたことを

考えられて、第2世紀の1年目にしっかりと「超我の奉仕」を勉強しなす、思想的に身につけなす、そして身につけたあとに「実践しよう」を持ってくることによって「知行合一」とまったく同じ思想を我々にアドバイスしてくれたのではないかと思います。「知行合一」でよく引き合いに出されるのが、山にこもった修行僧です。山にこもって修行をした修行僧が山を降りて、世のため、人のために働くというのが、修行僧のあるべき道であります。この僧がもし、山を降りても何もせず、ただこもっているだけであれば、彼は修行したことにならないわけです。「知」と「行」の2つが組み合わさって初めて彼は修行したことになるわけで、我々のロータリーにおいても、この2つがあって初めてロータリアンになるわけです。今年も、ロータリアンになるためにやはり行動を大いに重視し、めったにない「行動しよう」という年を大いに利用してゆきたいと思います。今日の午前中の会議も「いろいろありますが、とにかく前に進みましょう」という話が、両会長ともたくさんありました。「まあ、前に進めよう」というのは非常にいい合言葉です。

月信にも書きましたが、これは1923年の決議23-34にいまじくもまったく同じことが決議されています。何も新しいことではありません。1923年にロータリーのメンタルな思考は東洋思想と同じところまで達していたわけです。1905年のロータリーのスタートからいろいろな紆余曲折があったわけですが、いろいろな議論の混乱をまとめる上で、1923年にセントルイス国際大会があり、そのなかでこの「知行合一」と同じ決議をいたしました。これは社会奉仕に関する決議案で、現在の手続要覧の社会奉仕の章に全文が載っています。全文は非常に長いのですが、また、意識したのですが、その人口にこう書いてあります。「ロータリーは基本的に一つの人生哲学であり、超我の奉仕の哲学である」しかしながら、次は「ロータリーとは単なる心構えのことを言うのではない」。三番目に「奉仕するものは行動しなければならない。奉仕の哲学を客観的な行動に表さなければならない。ロータリアン個人もロータリークラブも奉仕の理論を実践に移さなければならない」。超我の奉仕をロータリーの実践哲学だとしてここではっきりと決議しています。行動の伴わない超我の奉仕は「超我の奉仕」ではありません。ですから超我の奉仕に含まれる職業奉仕も、理論だけ振り回してそれで済ませてはいけません。それは単なる十分条件で、必要十分条件とするためには、実践というか、本当に行動に移さなければ、ロータリアンとしての必要十分条件とはならないということが謳われています。今から90年前に我々の大先輩たちはこういう決議をされたわけで、こうした歴史を考えると、ロータリーの去年・今年のテーマは非常に重みのある私ども地区は認識しています。特に今年は「実践」何でも早くやりましょう、いいと思ったらどんどんやりましょう、チャレンジすれば先が見えてくる、全部見えないうちだってやってもいいんだよ、どうしてもだめだったら途中で船を降りればいいじゃないに力を入れてゆきます。CLPも、浦賀に黒船が来たように「黒船に乗ってCLPが来たよ」という調子で、自分のクラブが困っているならとにかくやってみましょう、だめだったら吐き出せばいいじゃないか、そういうのが今年のムードです。そのところをご理解いただき、「地区は何を先走ってやっているんだ」なんて思わないでいただきたい。かなりトライアルなことも今年はやる、元氣よくやるということでチャレンジしています。

ここで、なぜ1923年にこのような決議をしたかについて、時間の許す限りお話してみたいと思います。1905年にロータリーが始まりましたが、社交クラブで一種の互恵的な取引の場でした。会員間で取引をするために集まっていたわけですが、1908年になってアーサー・シェルドンが入会してきて、このような閉鎖的な社交ク

ラブでは発展性がないと批判しました。彼は本の訪問販売で成功した人ですが、一つの思想を持って販売していました。それは「サービス」の概念を持って客に接してきたことです。自信と実績を持ってロータリーに入ったのですが、それまでの閉鎖的な「親睦と取引」から「親睦と奉仕」を主張し、シカゴクラブの中は大騒動になりました。いろいろな論争があり、紆余曲折しているうちに1910年代に入り、全米ロータリークラブ連合会を新たに組織しなおし、また「親睦と奉仕」でロータリークラブの中をまとめ、だんだんと移行していきました。しかしながら商取引の影響は残っており、取引上のモラルが落ちたまになっているのはまずいということで、例えば1915年に「道徳律」が発表され、商取引における道徳を身につけなければならないことになりました。黎明期において、奉仕が現れて根付いてきましたが、「奉仕とは何か、どういう形で奉仕をなすべきか」という議論が再発してきました。当時は、ロータリークラブに来て、奉仕を学び、身につけて、自分の人間形成の一助とすることを学んで帰るというもので、ロータリーでは奉仕を学ぶところであり、行動するところではないという議論がまた出てきました。一方でそれはそれに反対する層があり、やはりロータリーは社会に出て奉仕行動しなければならない、実際に全米の身障児を救い、ケアした人たちが入ってきました。こうした問題が目立った存在になってきて、決着しなければならないと、今後国際的に広がるため、最終的にどうするか結論をまとめるため1923年になったわけです。セントルイス国際大会で提案がなされ、先ほど読み上げましたような思想の結論が出たわけです。この結論が出て、その後約1世紀近く、紆余曲折はあったものの、決議23-34は依然として生き残って、今日まで燦然と輝いています。先ほど申しましたように、今年と去年の合一したテーマと、まさに同じです。ですから、我々は動かなければならない、行動しなければならないことは間違いのないことであり、その意味でしっかりと思想を身につけた上で行動するという2つのことを実践しなければならないことをしみじみと感じています。1923年といいますと関東大震災の起きた年で、この決議の2〜3ヵ月後に地震が起きました。この決議の影響があつたか否か、東京ロータリークラブに大変な支援金が送られてきました。これも非常に早い行動があったからこそと思います。私どもがガバナーエレクト研修を受ける国際協議会会場の入口には「入りて学べ」、そして出口に「いでて奉仕せよ」と書いた看板があります。ガバナーエレクトは毎日これを見ながら会議場に出入りしています。昔からガバナーになられた先輩は帰ってきて必ずこのことをおっしゃいます。この「入りて学べ、出でて奉仕せよ」は昔から言われている言葉であり、去年と今年のテーマと完全に符合することです。

今年は、先ほどお話ししました飲酒運転防止リボンも含めてなるべく早く、即断即決で結論を出してゆくことで進めてゆきたいと思っております。皆様方の絶大なご支援を期待しております。ご静聴ありがとうございます。

(記録 松永)

◎懇談会が東京會館12Fコロシアム(11:00~12:00)で開催されました。

出席者 谷島ガバナー、秋山ガバナー補佐、大徳グループ幹事、荒木会長、石井幹事 (5名)

出席報告:(当クラブ)

会員56名 / 出席30名・欠席26名(出席規定免除者5名)

【お詫び】

先々週の週報925号の第3回クラブ協議会についての記事で秋山千代田グループガバナー補佐のお名前を「秋山 昶」氏と誤記してしまいました。正しくは「秋山 庸一」氏です。謹んで訂正するとともにお詫びいたします。

●次週予告 / 2006年10月20日第950回例会

◎卓話予定

『アラブとどう向き合うかー出会いと付き合い方』

アラブ・ジャパン協会 代表 赤堀憲夫氏



10月5日 / 6件27,000円 / 本年度累計355,000円
多額のご寄付をありがとうございました。(敬称略)

東京南RC会長金子尚志、副会長瀬山俊一、幹事渡部光康、親睦活動委員長中園正樹、SAA河田義宏 / 谷島昶ガバナー公式訪問及び、東京南・東京赤坂合同例会を祝して。武下朗 / 本日で合同例会は8回目になりました。特に南RCの皆さんのご配慮に感謝します。

お知らせ

◆会員メールアドレス変更 / 早川清隆君
(新) hayakawa3325@ybb.ne.jp